

BUSINESS REPORT

第67期 事業レポート

2015年12月1日～2016年11月30日



北興化学工業株式会社

証券コード：4992

To Our Shareholders

株主のみなさまへ

代表取締役社長

中島喜勝



株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第67期事業レポートをお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

第67期の業績につきましては、後述の「事業の経過および成果」のとおり、売上高は401億1千7百万円、営業利益は24億6千4百万円、経常利益は27億7千7百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は19億6千5百万円となりました。

これも、株主のみなさまをはじめ、関係者各位のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

期末配当につきましては、1株につき5.5円とし、中間配当と合わせて年間10円とさせていただきます。

2017年度は、当社グループが取り組んでいる現3カ年経営計画の最終年度にあたります。当計画の目標達成に向け全社一丸となって、取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年2月

事業の経過および成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、新興国経済の減速や円高の影響などから輸出や企業収益の改善に弱さがみられたものの、雇用・所得環境の改善が続くなか、個人消費の底堅い動きなどにより、引き続き緩やかな回復基調で推移しました。

しかしながら、世界経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響など、景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような状況のもと、当社グループは、中期経営計画の達成に向けた取り組みを着実に進め、営業活動においては、新製品の普及や新規受託品の受注活動を強化してまいりました。

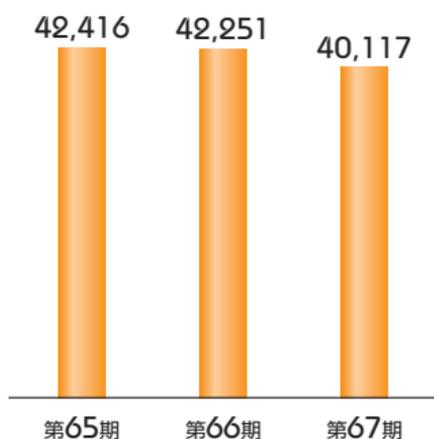
当連結会計年度における当社グループの売上高は、主にファインケミカル事業における製品需要の低下の影響により、401億1千7百万円（前連結会計年度比21億3千4百万円の減少、同5.0%減）となりました。

利益面では、原価低減や経費の削減を進めましたが、売上高の減少が影響し、営業利益は24億6千4百万円（前連結会計年度比3千2百万円の減少、同1.3%減）、経常利益は円高の進展による為替差損の発生もあり、27億7千7百万円（前連結会計年度比1億7千9百万円の減少、同6.1%減）となりました。一方、親会社株主に帰属する当期純利益は法人税等が減少したことから、19億6千5百万円（前連結会計年度比6千5百万円の増加、同3.4%増）となりました。

直近の業績の推移

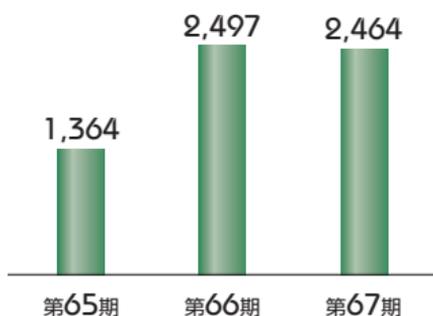
売上高

(単位:百万円)



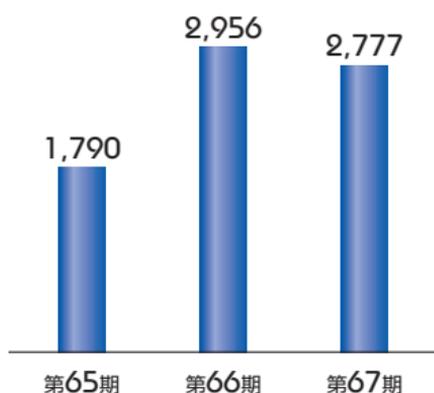
営業利益

(単位:百万円)



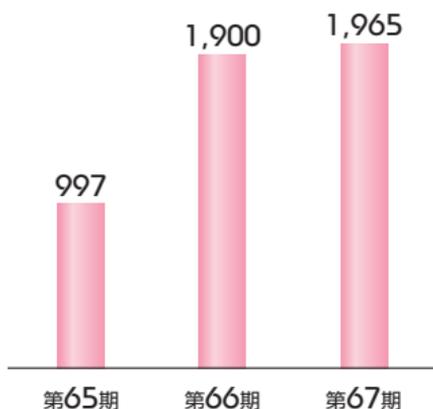
経常利益

(単位:百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



注) 表示方法の変更について

- ・当社は、たな卸資産の一部についてその廃棄損を営業外費用に計上しておりましたが、当期より売上原価として計上する方法に変更しております。
- ・これに伴い、第65期および第66期については、営業利益並びにセグメント別農業事業の営業利益を、同様の基準で組み替えて表示しております。
- ・なお、売上高、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の表示に変更はございません。

事業別の状況



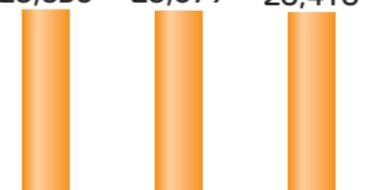
農薬事業

自然環境にやさしい“種子から収穫まで護る”製品をラインアップ。国内はもとより海外へも市場を拡大しています。

売上高

(単位:百万円)

28,836 28,679 28,418



第65期 第66期 第67期

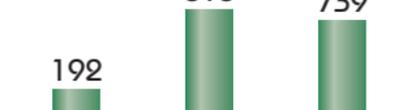
営業利益

(単位:百万円)

192

818

739



第65期 第66期 第67期

農薬製品の国内販売では、新剤の拡販により水稻用除草剤が伸長しましたが、その他の製品が減少、また海外販売では、受注が増加したものの、為替の影響などにより、前連結会計年度比減収(0.9%減)、減益(9.6%減)となりました。



ファインケミカル事業

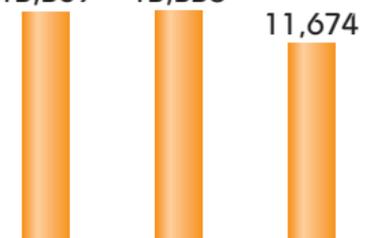
グリニャール反応の工業化技術をキーテクノロジーに、幅広い産業界からのニーズに応えています。

売上高

(単位:百万円)

13,509 13,538

11,674



第65期 第66期 第67期

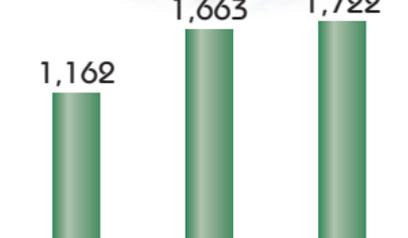
営業利益

(単位:百万円)

1,162

1,663

1,722

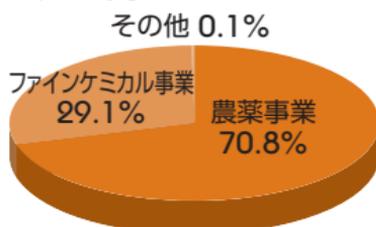


第65期 第66期 第67期

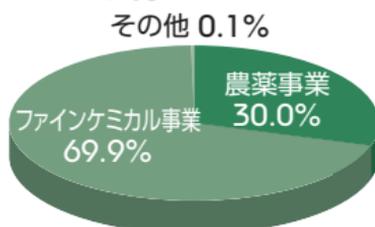
ファインケミカル製品の販売は、世界的な需要の低迷により、主要分野の樹脂添加剤や医農薬中間体が減少するなど受注が低調に推移したことから、前連結会計年度比減収(13.8%減)となりましたが、営業利益は原価低減や経費の削減により増益(3.5%増)となりました。

事業別構成比

売上高



営業利益



Topics

農薬事業

新潟工場第二工場完成

海外でのカスミン剤の需要増加に対し、カスミン原料を安定供給するために新潟工場第二工場を建設しておりましたが、2016年11月に完成し稼働を始めました。

カスミン剤は、主にアジアの水稻病害防除に使用され、米の安定生産に役立っています。



ファインケミカル事業

研究・生産設備の増強

新製品生産のスケールアップ研究を行うパイロットプラントにおいて、小型反応缶を増設し、工業化検討能力を補強しました。また、生産プラントにおいては、一部の精留設備を自動化するなど、工場の研究・生産設備の増強を進めております。今後も計画的な設備投資により、研究開発をさらにスピードアップさせ、顧客からの要望に沿った高品質な製品をより低コストで生産できるよう、研究・生産設備の充実をはかります。



増設したパイロットプラントの小型反応缶

3カ年経営計画の進捗状況

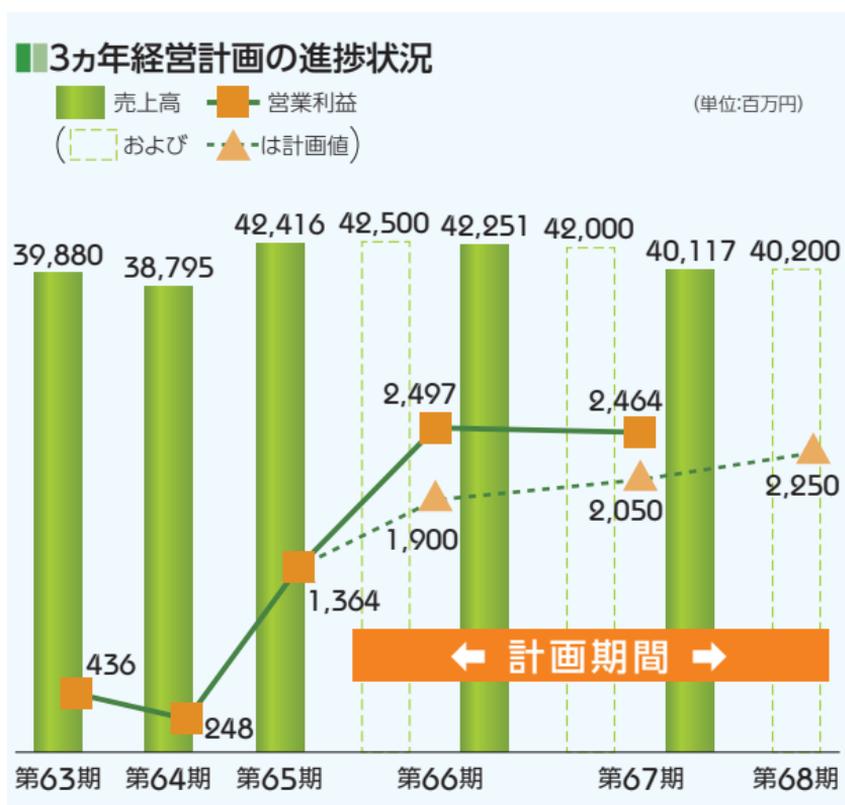
2期目が終了し、事業構造改革や効率化、原価低減の推進効果により、売上に依存しない筋肉質な事業体質への転換が進み、利益率が向上しました。

<農薬事業>

国内では自社原体含有農薬の登録を拡大するとともに、海外市場における登録・販売体制の整備を進めました。

<ファインケミカル事業>

生産設備の増強により、多様化・複雑化する市場ニーズへの対応力を強化するとともに、商社等とのアライアンスにより、海外における販売体制整備を推進しました。



注) 表示方法の変更について

当社は、たな卸資産の一部についてその廃棄損を営業外費用に計上しておりましたが、当期より売上原価として計上する方法に変更しております。これに伴い、第63期より営業利益を同様の基準で組み替えて表示しております。

会社の概要 (2016年11月30日現在)

会社の商号 (英訳名)	北興化学工業株式会社 HOKKO CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.
本社	東京都中央区日本橋本町一丁目5番4号
創立年月日	1950年2月27日
資本金	32億1,395万円
上場取引所	東京証券取引所 市場第1部上場
従業員数	652名
事業所の所在地	支店 札幌、仙台、東京、新潟、 大阪、岡山、福岡 工場 北海道、新潟、岡山 研究所 開発研究所(神奈川)、 化成品研究所(神奈川) 試験農場 北海道、静岡

株主メモ

事業年度	12月1日から翌年11月30日まで
配当金受領株主確定日	期末配当 11月30日 中間配当 5月31日
定時株主総会	毎年2月
公告方法	電子公告(当社ホームページ) ただし、電子公告による公告ができない場合は、 日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)



北興化学工業株式会社

〒103-8341 東京都中央区日本橋本町一丁目5番4号
住友不動産日本橋ビル
TEL.03(3279)5151



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

